RESSL u. BEIER, (1958) : Zur Oecologie, Biologie und Phaenologie der heimischen Pseudoscorpione, Zool. Jahrb. System. Jg. 86, 1/2. pp. 1-26, 2 Figs, 10 Tabls.

MORIKAWA, K. (1960) : Systematic studies of Japanese Pseudoscorpions, Mem. Ehime Univ., Sect. II, Ser. B, Vol. 4, No. 1, 85-172 pp., 10 Pls.

MAKIYAMA, Ziro (1964) : Regional geography of Central Japan, Edit. 4, 251 pp.

金子光司先生おぼえがき

岸　田　久　吉

私のこの世に生を受ける前　10年余　珍しい1種のトタテグモが　わが日本から記載された．しかしながら　その再発見は　ここに　小肖をかかげた金子先生が　長野県で　遂げられたので　カネコトタテグモの和名が　ついた次第である．

金子先生によって　発見されたクモは　10種を　こえる．近畿以東にいるニシナグモというササクモ科の逸品も　その一つである．ニシナ　ゲネロサと言う．　ほほえましい学名の持ち主として　知られている．イナジエビクモも　カニクモ科に　こっている同好の注意をひいている逸品である．

こんなことで　日本クモ学の発達史に心を労する諸兄姉の間で　金子先生とは　どういうお方かと　ささやかれている．アクタの記念号のために　ふさわしいと思い　ここに　確実なところを　おぼえがきとして　書かせていただく．

金子先生は　①明治19（1886）年7月6日長野県諏訪市中洲2760に生れられ　②明治43（1910）3月31日東京高等師範学校本科博物学部を　卒業された　③同年4月2日　長野県師範学校教諭兼訓導を拝命　④大正13年1月30日　長野県松本高等女学校に転勤　⑤昭和4年12月18日　長野県松本中学校に転勤　⑥昭和6年11月2日　茨城県師範学校に転出　⑦昭和12年4月1日　東京都明星中学校（私立）に転出　⑧昭和20（1946）年8月10日ご郷里にお帰りになられ，今日悠々自適して　いらっしゃる．



左掲の小肖は　お宅の庭で　他の1人の方と共におとりになったもの　長野時代のものです．

日本クモ学育ての3大家として　中村正雄　前原勘治郎両先生と共に　景仰される方である．

〔追記〕金子先生のご令弟は東大の化学御出身で理博であり惜しいことに早世せられました．先生のご長男は農芸化学の秀才であり，宅の死んだ長男は同期でした．